

第六回「まちづくり愛川・俳句大会」投句状況

※「まちづくり愛川・俳句大会」実行委員会では、投句箱による投句（応募）を随時受け付けております。また平成二十九年度から、次の四期に分けて、本HP内で紹介させていただくとともに、選句委員による「奨励選句」の紹介も行っております。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ①春期（二・三・四月） 奨励選句の紹介は五月
- ②夏期（五・六・七月） 奨励選句の紹介は八月
- ③秋期（八・九・十月） 奨励選句の紹介は十一月
- ④冬期（十一・十二・一月） 奨励選句の紹介は二月

以上、当季雑詠とする。

※なお、コロナ禍の状況を熟慮し、第六回大会の投句締め切りを一年間延長し、令和四年十一月三十日とさせていただきます。これにより、表彰式は、令和五年三月上旬の午後に開催の予定で、執行させていただきます。どうぞご理解願います。（決定しだい、後日明記します。）

「奨励選句」された句も対象になります（入選は、一人につき一句）。尚、表彰式は、新型コロナウイルス感染拡大の防止を考慮し、実施しない場合もありますのでご承知おきください。

※ここで紹介させていただく句は、令和三年度分、及び四年度分における選句対象となります。

☆印は、委員による「奨励選句」。尚、選者により、添削されている箇所がある場合もあります。どうぞ、ご了承願います。また諸事情により、小・中学生の記名については未記載とさせていただきます。併せてご理解ください。

〈冬期 及び 春期〉（投句期間 令和二年十一月～令和三年四月）

【小学生の部】・【中学生の部】・【一般の部】

（※各部とも投句無し。コロナ禍の終息がみられないことによりものと想われる。）

〈夏期〉（投句期間 令和三年五月～同年七月）

【小学生の部】・【中学生の部】ともに投句無し。

【一般の部】 ☆奨励選句3句

- ・中津の里どこを切っても中津の里（相模原市緑区 栗田 知英 様）
- ・行く春は始まる希望入社式（愛川町半原 加藤 一平 様）
- ・朝夕に雫のふとる木の芽かな（ 同 右 ）

☆畑染める踊子草が踊り出す

(厚木市下川入

飯田 茂 様)

・田水張り逆さ大山映す頃

(同 右

)

・川渡る声援の声草野球

(同 右

)

・花曇柿の実性のせいくらべ

(愛川町中津

川端 三枝子様)

・絹の里愛川に住み半世紀

(同 右

)

・浮雲の丸や三角花辛夷

(厚木市山際

森田 陽子様)

・足跡の薄く残るや山葵沢

(同 右

)

〈秋期〉(投句期間 令和三年八月～ 同年十月)

※この期間に投句された句を記載

【小学生の部】 ☆は該当句なし

・カブトムシよんだよんだよしんぶんし

・したいよねロンインクラフトわたるくん

・ひのもとやはいりぐちからさくらかな

・ぶらんこやさくらはなをもちながら

(※以上4句は、同一の児の作品。)

・あいかわのみどりゆたかなまちが好き

・しずかだな森にしみ入るせみのこえ

・川の音さらさらながれる水の音

・夜の中オオロギの声しずかだな

(※以上3句は、同一の児の作品。)

・虫さがしいろんな虫を見つけたよ

・虫さがしいろんな虫をつかまえた

(※以上2句は、同一の児の作品。)

・あいかわでおさらをつくつてたのしいな

・あいかわでどんぐりみつけあそんだよ

・カブト虫じゅえきを食べて元気だね

【中学生の部】 ☆は、該当句なし

・愛川の千代重ね成る桜かな

【一般の部】

☆かなかなや木に括らるる金梯子

(厚木市山際

森田 陽子様)

・山裂けしあとの月日や鯛雲

(同 右

)

・秋の日や柿食む猿と目が合うて

(同 右

)

・あさがおに手すりとられてむすこの手

(愛川町中津

阿部 秀昭 様)

・七夕や二人の境界愛の川

(東京都あきるの市 あらきともやす様)

・つゆの雨じめじめしててかつたるい

(相模原市南区

鈴木 遥佳 様)

・夏まつり今年も無くてかなしいな

(同 右

)

- ・つゆあけは暑い日が来ていやになる () 同 右 ()
- ・愛川の自然豊かな夏の空 (愛川町中津 吉浦 有祐 様) ()
- ・コロナ禍で服部牧場馬乗れず () 同 右 ()
- ・蘇る愛川歴史夏之音 () 同 右 ()
- ・子らの追ふ高くたかくへ赤蜻蛉 (清川村煤ヶ谷 柳川 美津江様) ()
- ・朝霧や鹿の親子を消してをり () 同 右 ()
- ・七色の落葉踏みふみ風の丘 () 同 右 ()
- ・初秋を曾孫誕生リモートで (愛川町中津 森田 京子 様) ()
- ・危機感のその裏側を夏五輪 () 同 右 ()
- ・蝉しぐれその日暮らしに生かされて () 同 右 ()

(※右の3句は、9月末に投句されたもので、ここに記載)

- ・滝音に映えて深きへ散る楓 (海老名市国分南 東郷 満明様) ()
- ・残暑濃く抜け殻集う大樺 () 同 右 ()
- ・滝唸り山肌惑い紅まとい () 同 右 ()
- ・あめんぼうひとつに水輪ひとつ湧く (厚木市鳶尾 矢下 育子様) ()
- ・山の端にたたまれてゆく大夕焼 () 同 右 ()
- ・風鈴の風の機嫌を伝へけり () 同 右 ()
- ・己が影の愛しく見ゆる星月夜 () 同 右 ()
- ☆背負子から小さき足出る花野かな () 同 右 ()
- ・もみぢ降る湖底の村へ届くほど () 同 右 ()

(※右の六句は十一月にまとめて投句されたもの。後半の句は、

秋の時期の作句と想われるので、ここに記載。)

〈冬期〉(投句期間 令和三年十一月〜 令和四年一月)

【小学生の部】

- ・かわせみよとともきれいな青いろだ () 冬の雪どうしてそんなに寒いのか

(※右の2句は同一の方の作。他に川柳と思われるものが4句あったが、ここでは未記載)

- ・冬の朝ふとんかぶって寒さなし () びっくりだ上から見たらきれいすぎ

(※以上2句は、同一の方の作) () 橋の下ダムの中には水の青

・愛川のふんすい近く虹かかる
☆あいかわ町12じ18ぶん雪

・昔はね戦争をした怖かった

【中学生の部】 ☆該当句なし

・寒いけどスタンプラリーがんばるぞ

・風の谷そこにいる虎なにものだ

(※右の2句は、同一の方の作)

【一般の部】

・新緑へ吸い込まれゆくしゃぼんだ玉

(愛川町半原 武川 多恵様)

・嚙られし土筆 姿なし美食家

(同 右)

・背を反りし目が合う月と女子トーク

(同 右)

(※右の3句は、十一月末に投句されたもので、ここに記載)

・ダム湖より遙かなる塔秋澄めり

(清川村煤ヶ谷 柳川 美津江様)

・綿吹くや嫁入り布団半世紀

(同 右)

☆秋の雲ふはり乗れそう子の町へ

(同 右)

・コウロギの中にコオロギがいた

(東京都八王子市 古山 大 様)

(※右の方は、他に2句の投句あり。川柳と思われるため、ここでは未記載)

・秋しぐれ柿の青さが目にしみ入る

(愛川町半原 ウチダ 様)

・コロナ禍にあれどこたろうせつけんは

(同 右)

・赤き実を口にほうばる猿を見る

(同 右)

・日光に負けぬ紅葉あいかわ町

(東京都世田区 永倉 秀幸様)

・おみくじを引いて満足五歳児か

(伊勢原市 杉山 順一 様)

☆新春のくじひらいては全て吉

(同 右)

・おみくじは全て吉だよ小学生

(同 右)

・冬のダム静かで何もみつからない

(伊勢原市 杉山 いずみ様)

・インクライン寒くてガタガタふるえてる

(同 右)

・愛川の愛変わらずの美しさ

(府中市 内田 浩一様)

〈春期〉(投句期間 令和四年二月～ 令和四年四月)

【小学生の部】

・ホーホケキョ桜まいちる公園で

・川の音ほたるひかりて朝がくる

・桜まう春のおとずれホーホケキョ

(※以上3句は、同一の児の作)

・うれしいな愛川町のまちづくり

・お花見だ花びらちるよキレイだな

・愛川は桜がすごくきれいだな

・愛川はアユがいっぱいといれる場所

(※以上2句は、同一の方の作)

・カプトムシぶんぶんとぶよ夏の虫

・ミツバチが野原をとぶよブンブンと

☆カマキリが野原の上でかくれるよ

(※以上3句は、同一の方の作)

・春の花陽に照らされて光ってる

・たくさんの花がゆたかな台地だね

【中学生の部】

・学校前新入生待ち桜咲く

・雪降りて地面が白く輝けり

(※以上2句は、同一の方の作)

・ホーホケキョと鳴くうぐいすの寂寞な声

・蛙は鳴く鳴かぬ虫は何を言うかな

(※以上2句は、同一の方の作)

【一般の部】

・目薬の一滴ごとの芽吹きかな

(清川村煤ヶ谷 柳川 美津江様)

・子らの吹く届けダム湖へひよんの笛

() 同 右 ()

☆永らへて良き事数ふ春の虹

() 同 右 ()

・梅林に群れ集う子の笑顔かな

(厚木市森の里 吉田 恭治様)

・芽ぶく森霞むタワーに目をこらし

() 同 右 ()

・春を待つ背にランドセル一年生

() 同 右 ()

・まちづくり先の見えない花見酒

(横浜市旭区 宮崎 和子様)

・愛川の清流のもと鮎育つ

() 同 右 ()

・捨てるものに囲まれなおも冬ごもり

() 同 右 ()

・父似なる姉の運筆文化の日

(厚木市山際 森田 陽子様)

・青空へ切り込んでをり枯銀杏

() 同 右 ()

☆探梅や絹の道てふ石畳

() 同 右 ()

・あと何回見れるだろうか里桜

(愛川町角田 鈴木 蓮様)

・愛川町エスカレーター一つもない

() 同 右 ()

・名月を捉えて一句捻りけり

(愛川町田代 中村 保久様)

- ・渡り鳥見えぬ河畔に独り佇む () 同 右 ()
- ・リュック背負い駆け抜ける朝の若桜 (愛川町春日台 鈴木 健吾 様)
- ・禁煙も八菅の山にも十八年 (愛川町中津 酒井 政志 様)
- ・山を登って十八年、大げやきは三百年、何をか思わん () 同 右 ()
- ・元年良く登っても、とぼとぼ登っても山は山、元気をくれる () 同 右 ()
- ・ピロードの木の葉ゆらして山笑ふ (海老名市国分北 加藤岡 完 様)
- ・山里のつつじをめでてさんさくす (愛川町田代 内山 三千子様)
- ☆若竹のしなう音きく八菅山 (愛川町半原 大塚 トシ子様)

〈夏期〉(投句期間 令和四年五月～ 令和四年七月)

※コロナ禍により、確認が遅くなり、九月十一日現在の投句確認

【小学生の部】 ※学年等は未記載

- ◇しまいに頭かまれて元気です (サトウガイふううではないおもしろい)
- ・せんとうき平和な世界ねがってる (※以上3句は、同一の方の作)
- ・愛川の緑いっぱい鳥の森 (たくさんの陽に恵まれてゆたかかな)
- ・愛川はふしぎ多くてきらいなし (びっくりだ猿が出てきて大あわて)
- ・愛川やああ愛川や愛川や (※以上3句は、同一の方の作)
- ・水の音ダムのおかげで流れてる ◇水遊びカニをつかまえ楽しいな
- ・せみの声ミンミン鳴くよ夏がきた

【中学生の部】 ※投句無し

【一般の部】

- ・立春や曾孫^{まじ}おすわりとはいはいと (愛川町中津 森田 京子 様)
 - ・カタコトでバイバイしてる花がすみ () 同 右 ()
 - ・ヨチヨチも待たずむかえし入園日 () 同 右 ()
- (※右の3句は、春期の作と思われませんが、五月初旬の投句のため、ここに記載しています。)
- ・青空や雲雀羽ばたく跡もなし (東京都西東京市 梁 志傑 様)
 - ・そよ風や共に舞い込む落ち葉かな () 同 右 ()
 - ・聞こえたか空破れぬべし蟬の声 () 同 左 ()

(※右の3句は、五月初旬の投句であり、ここに記載していません。)

・汗光るじゃぶじゃぶ池と子の笑顔 (海老名市東柏ヶ谷 佐藤 智加 様)

・春が来た冒険の森に突入だ (同 右)

・気がつけば初夏の風ふくほたる坂 (無記入 高杉 岳虎 様)

・二年ぶり会話はじける紫陽花路 (愛川町中津 内野 ちえみ 様)

・どうしたの問う振花に心晴れ (同 右)

・ぼうたんの中やたゆたふ雨雫 (厚木市山際 森田 陽子 様)

・あぢさゐや箱根の町のさんざ降り (同 右)

☆校庭の蛇口逆立て日焼けの手 (同 右)

・雨あがりぬれ落葉桜もちの香り (愛川町半原 清水 真智子 様)

☆水しぶき蟬と子供がにぎやかだ (鎌倉市 佐藤 愛 様)

・ダムに来た観光放流せみの声 (鎌倉市 佐藤 諒一 様)

・気持ち良き汗を乾かす夏風よ (南足柄市 花崎 洋 様)

・水遊び泣き顔まじりの思い出に (同 右)

〈秋期〉(投句期間 令和四年八月〜 同年十月) ※この期間に投句された句を記載

【小学生の部】 ※学年等は未記載

・夏のかぜひとびと守るお母さん (※上の1句は、八月上旬の投句であり、ここに記載していません。)

・愛川の自然の大地にばあば住む ・カワセミと愛川町は大好きだ

(※右の2句は、同一の方の作)

・愛川の豊かな自然大好きだ ・あついけど黄色い葉っぱとおべんとう

・あいかわ町クリがいっぱいみのりの秋 ・おさなごり愛川町をとび回る

・あいかわ町さむくてひんやりきもちいな (※以上3句は、同一の方の作)

【中学生の部】 ※学年等は未記載 ※投句は無し

【一般の部】

・草の穂をビンに挿して月見する (愛川町半原 榎本 ハル子 様)

・秋の空合間みてはと庭いじり (同 右)

・夏終わり食用草を刈り込む手 (同 右)

・寅年で強がり言って無理をする (同 右)

・暑さ去り木の葉も色が変わりけり (同 右)

・蝌蚪群れて池の膨らむ無人店 (愛川町半原 富永 規子 様)

・ゴミ漁る若き男あり鴟の声 (同 右)

・桐生えて狭庭賑やか昨日今日 (同 右)

・折り返すバス待機中賜猛る (厚木市山際 森田 陽子 様)

☆虫に寝て瀬音に目覚む峽の宿 (同 右)

・括りてもなほ傾げたる黄菊かな (同 右)

・秋の虫となりでおどろく母の顔 (横浜市戸塚区 吉田 唯 様)

・豊の秋百歳目指す声の張り (厚木市下荻野 内田 衣江 様)

・夢に酔ふ地酒蓬莱温め酒 (同 右)

☆嫁ぎ来て変はらぬ古木柿紅葉 (同 右)

・ひと群が笑いはじまる曼珠沙華 (愛川町角田 大友 香景 様)

・土を跳ね喜雨のつぶての土ぼこり (同 右)

・八普路や駆けゆく二人柿時雨 (同 右)

(※右の三句は、まとめて投句されたものであり、ここに記載しています。)

・天狼の光雫と中津川 (愛川町半原 清水 森童 様)

・蓑虫や眼玉ぎよろりと狙撃兵 (同 右)

・七色を利那に重ねしやばん玉 (同 右)

(※右の三句は、まとめて投句されたものであり、ここに記載しています。)

・早乙女の消えて久しく水の郷 (愛川町角田 諏訪部 梢葉 様)

・人はみな独去独来花の雲 (同 右)

・十葉や遠き戦火を聞く日々に (同 右)

(※右の三句は、まとめて投句されたものであり、ここに記載しています。)

・天高し「ふるさとまつり」咲く笑顔 (愛川町半原 武川 多恵 様)

・柿一つスマホ画面に残しけり (同 右)

・坂登る金木犀の香に押され (同 右)

(※右の三句は、まとめて投句されたものであり、ここに記載しています。)

【小学生の部】

・愛川の豊かな風景満きつし

【中学生の部】 投句無し

【一般の部】

・冬木立万枝といへど重ならず (厚木市鷲尾 矢下 育子 様)

・枯れ菊に枯れ菊の香の立ちにけり (同 右)

・綿虫を連れて垣根を曲がりけり (同 右)

・生家消ゆ母の味する酒饅頭 (同 右)

・百歳に百歳の欲桜舞ふ (同 右)

・緑濃き大樹に明日を託しけり (同 右)

・ほうたるの一筆書きを読む夜かな (同 右)

・なで牛の瞳つぶらに秋深む (同 右)

・白萩のうねりに道をゆずりけり (同 右)

・秋蝶の息するやうに羽立てり (同 右)

・寝ころんで小春の空をひとり占む (同 右)

(※以上の十二句は、冬～春の順に詠まれたと思われませんが、十一月末に、

まとめて投句されたもので、ここにまとめて記載しています。)

・静けさの古戦の里や草の花 (東京都町田市 矢野 安美 様)

・つはものの眠る峠や色なき風 (同 右)

・万緑を分かつ轟ダム放水 (同 右)

・ダム湖へと姫おはすかに桜東風 (同 右)

・ひたすらなダムの放流虹架けて (東京都町田市 瀬戸 紀恵 様)

・冒険の森の日だまり小鳥来る (同 右)

・合戦碑なぞればふゆる赤蜻蛉 (同 右)

・活気満つ工場群や天高し (東京都町田市 小川 夏葉 様)

・八十億の人住む地球月を食む (同 右)

- ・湧き水の光る小径や溪紅葉
（同 右）
- ・かがやかに遠き日はあり銀杏散る
（東京都町田市 大沼 まり子様）
- ・露草や明けの光の露飾る
（同 右）
- ・薫風の届けよ戦止まぬ地へ
（同 右）
- ・一打より広がる紅葉ゴルフ場
（東京都町田市 福原 紅 様）
- ・山眠る懐深く湖を抱き
（同 右）
- ・ゴルフ場はもと古戦場鬼やんま
（同 右）
- ・跡継の次男のちやかす次郎柿
（東京都町田市 尼崎 沙羅 様）
- ・兵の夢の後さき赤とんぼ
（同 右）
- ・稲架襖開き丹沢目の辺り
（同 右）
- ・四千年一度の光景皆既月食
（愛川町半原 広井 瑞枝 様）
- ・皆既月食聖なる神秘赤銅色
（同 右）
- ・落月の峰に輝ふ満月光
（同 右）
- ・ホウノキのうちわを持ちて散歩かな
（厚木市愛甲 清水 晃子 様）
- ・宮が瀬に落葉重ねて秋深し
（藤沢市亀井野 竹花 敏夫 様）
- ・宮が瀬の水面に映える落葉かな
（同 右）
- ・愛川の歴史を刻む資料館
（同 右）
- ・コロナあけ秋の深まり活気わく
（相模原市緑区 坂井 勇人 様）
- ・十年後リニアの街で百万人
（同 右）
- ・紅葉がり特異日ねらい雨がふる
（無記入 山田 太郎 様）
- ・晩酌を少し増やした神の留守
（足柄上郡中井街 尾崎 竹詩 様）
- ・気をつける発火しそうな烏瓜
（同 右）
- ・大山の二辺がすでに冬構え
（同 右）
- ・庭巡り名もなき花の枯れ姿
（愛川町半原 森 修子 様）
- ・山十郎今年限りか菊花展
（愛川町中津 今井 千鶴子様）
- ・名にし負う中津往還菊日和
（同 右）
- ・老木に梅の一輪鳥さわぐ
（厚木市森の里 永嶋 信一 様）
- ・朝早く梅が咲いたよ散歩道
（同 右）

- ・からつ風彫りのやく動目に刻む () 同 右 ()
- ・白梅や夜をひきさくひとこころ (厚木市森の里 井上 綾花 様)
- ・梅咲くや空の青さを深めゆく (厚木市森の里 竹下 エミ子様)

※ 以上の掲載句をもちまして、「(第六回)まちづくり愛川・俳句大会」への投句募集を終了させていただきます。ご投句いただきました皆様、並びに大会運営にご理解・ご協力いただきました皆様にあらためて深く感謝申しあげます。

なお、終息しないコロナ禍の状況を熟慮し、令和五年三月上旬に予定しておりました表彰式は中止とさせていただきます。表彰状等の発送をもって替えさせていただくとともに、次により、本HP内で紹介させていただきます。併せてご理解くださるようお願いいたします。

また、「(第七回)俳句大会」の実施については、コロナ禍の現状等を考慮し、休止とさせていただきます。皆様にとっても、再び安心してご投句いただける安寧の日々の到来を祈願します。

「(第六回)まちづくり愛川・俳句大会」入賞句の紹介

「一般の部」 (当季雑詠)

◇最優秀賞(愛川町長賞)

- ・背負子から小さき足出る花野かな (厚木市鳶尾 矢下 育子 様)

同 (愛川町教育委員会教育長賞)

- ・虫に寝て瀬音に目覚む^{かひ}峡の宿 (厚木市山際 森田 陽子 様)

◇優秀賞(俳句大会実行委員長賞)

- ・嫁ぎ来て変はらぬ古木柿紅葉 (厚木市下荻野 内田 衣江 様)

同 (ホツとペンチ賞) (※順不動)

- ・若竹のしなう音聞く八菅山 (愛川町半原 大塚 トシ子 様)
- ・早乙女の消えて久しく水の郷 (愛川町角田 諏訪部 梢葉 様)
- ・万緑を分かつ轟ダム放流 (東京都町田市 矢野 安美 様)
- ・土を跳ね喜雨のつぶでの土ほこり (愛川町角田 大友 香景 様)

・兵の夢の後さき赤とんぼ

(東京都町田市 尼崎 沙羅 様)

◇奨励賞(選句委員特別賞) (※順不同)

・坂登る金木犀の香に押され

(愛川町半原 武川 多恵 様)

・冒険の森の日だまり小鳥来る

(東京都町田市 瀬戸 紀恵 様)

・山眠る懐深く湖^{うみ}を抱き

(東京都町田市 福原 紅 様)

・かがやかに遠き日はあり銀杏散る

(東京都町田市 大沼 まり子 様)

・秋の雲ふはり乗れさう子の町へ

(清川村煤ヶ谷 柳川 美津江 様)

・畑染める踊子草が踊り出す

(厚木市下川入 飯田 茂 様)

・八十億の人住む地球^は月を食む

(東京都町田市 小川 夏葉 様)

・春が来た冒険の森に突入だ

(海老名市東柏ヶ谷 佐藤 智加 様)

・老木に梅の一輪鳥さわぐ

(厚木市森の里 永嶋 信一 様)

・白梅や夜をひきさくひとところ

(厚木市森の里 井上 綾花 様)

・梅咲くや空の青さを深めゆく

(厚木市森の里 竹下 エミ子 様)

(以上)

(第六回「まちづくり愛川・俳句大会」実行委員会・選句委員会)